

2016 年度

就労移行支援事業所

ウィング・ビート

事業報告

社会福祉法人 電機神奈川福祉センター



目 次



1. 法人概要と事業の沿革	P2
2. 2016 年度 事業目標と事業報告	P4
3. 2016 年度 事業の詳細分析	P6
(1) 利用者数の概況と推移	
(2) 見学から施設利用への推移	
(3) プログラムについて	
(4) 就労支援と定着支援	
(5) 地域課題・福祉課題に向けた取り組み	
(6) 研修・会議の状況	
4. 2017 年度 事業目標	P25

1. 法人概要と事業の沿革

社会福祉法人電機神奈川福祉センター設立の経過

1972年、電機連合神奈川地方協議会（以下、神奈川地協）は、第20回定期大会において、労働組合としては全国に先駆けて障がい福祉活動を開始しました。神奈川地協は、神奈川県内の電機・電子・情報機器関連産業に働く組合員で組織された産業別労働組合です。障害をもつ人も「ともに学び、遊び、育ち、働き暮らせる社会」を目指した障がい福祉活動は、国際障害者年の理念でもある「ともに生きる社会づくり」への大きな潮流につながりました。

この活動を20年にわたり続けてきた間、障害をもつ子どもたちの育ち学びあう場は広がり、選択できるようになってきました。しかし、学校卒業後の進路は依然として厳しい状況が続いていました。

そこで、学校卒業後の進路の問題を、神奈川地協の障害福祉活動の新たな展開とすべく、1991年に「電機神奈川福祉センター設立準備委員会」を設置し、翌1992年に「横浜南部就労支援センター（当時、就労援助センター）」の事業を開始しました。その後、1995年3月に神奈川県より社会福祉法人の認可を受け、1996年8月より通所授産施設「ぽこ・あ・ぽこ」の事業を開始しました。以後、神奈川県内で様々な事業を展開しています。

社会福祉法人電機神奈川福祉センター 沿革

年	法人の事業等
1972年	電機連合神奈川地方協議会（当時：電機労連）定期大会で心身障害児・者対策運動決議
1991年	電機連合神奈川地方協議会定期大会で社会福祉法人電機神奈川福祉センター設立決議
1992年	横浜南部就労支援センター（当時：援助センター）開所
1995年	社会福祉法人認可
1996年	知的障害者通所授産施設「ぽこ・あ・ぽこ」開所 横浜市新杉田地域ケアプラザ開所
1997年	湘南地域就労援助センター開所
1998年 〈雇用促進法改正： 知的障害者雇用義務化〉	中部就労援助センター開所（当時：川崎北部地域就労援助センター）
1999年	在宅介護支援センター開始（横浜市新杉田地域ケアプラザ） ふれあいショップいそっぷ開店

2000年 〈介護保険法施行〉	居宅介護支援事業開始（横浜市新杉田地域ケアプラザ） 通所介護支援事業開始（横浜市新杉田地域ケアプラザ）
2001年	社会事業授産施設「川崎市わーくす大師」を川崎市より受託 生活支援事業受託（湘南地域就労援助センター）
2003年 〈障害者基本法施行〉	NPO 法人障害者雇用部会発足
2006年 〈障害者自立支援法施行〉	地域包括支援センター受託（横浜市新杉田地域ケアプラザ） ふれあいショップいそっぷ閉店 就労移行支援事業・就労継続支援事業B型開始（ぽこ・あ・ぽこ、川崎市わーくす大師） 神奈川県生活支援事業受託（湘南地域就労援助センター）
2008年	生活支援センターわーくす大師開始（川崎市わーくす大師）
2010年	自立訓練事業（生活訓練）開始（ぽこ・あ・ぽこ） 障害者就業・生活支援センター受託（湘南地域就労援助センター、中部就労援助センター）
2011年	川崎市地域活動支援センター開始（ウィング・ビート）
2012年	全国就労移行支援事業所連絡協議会発足
2013年 〈障害者総合支援法施行〉	生活支援センターわーくす大師閉鎖 （川崎市の相談支援センター整備に伴う）
2014年	ウィング・ビート 川崎市地域活動支援センターから就労移行支援事業へ 事業移行
2015年	就労移行支援事業・自立訓練事業（生活訓練）開始（ミラークよこすか）
2016年	特定相談支援事業開始（川崎市わーくす大師） 生活支援体制整備事業開始（横浜市新杉田地域ケアプラザ）

社会福祉法人電機神奈川福祉センター 運営方針

《わたしたちのめざすもの》

- 障害者の社会的自立をめざす
- 地域福祉の充実をめざす
- 福祉に対する啓発

《使命と誓い》

- 最善・最適な幸福の提供
- 絶えざる研鑽と成長

2. 2016 年度 事業目標と事業報告

平成 28 年度目標	平成 28 年度 事業報告
重点目標	
<ul style="list-style-type: none"> ● 平均契約者数 20 名の実現を目指します。 ● 利用待機者へのイベントを確立・定着させ、新規利用者の確保に努めます。 ● 施設外実習先を 1 件開拓します。 ● 次年度実施を予定している第三者評価の受審に向け、ぽこ・あ・ぽこ、わーくす大師と情報共有を行い、準備を進めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 平均契約者数は 24.8 名でした。 ● 待機者イベントは定着し、待機を解除する方はいませんでした。 ● 川崎市立高津図書館での書架整理業務を獲得し、既存の実習先についても、業務拡大を果たしました。 ● 施設職員向けの説明会に同席し、フローやポイントについて共有しました。
1) 就労移行支援事業 (20 名定員)	
<ul style="list-style-type: none"> ● 年間 12 名以上の就労者を輩出します。 ● 清掃以外の職種での恒常的な施設外実習先を新たに開拓する事を目指し、年間 20 件以上の施設外実習の機会を提供します。 ● 平均契約者数 20 名を目指し、就労により退所となる 12 名以上の新規利用者を確保します。 ● 4 月に新卒生を受け入れる体制を作る為、フリースクール等の現役学生に対する、効率的な見学や実習のフローを固めて実施します。 ● 市外の福祉関係機関とも連携を図りながら、利用者獲得に向けての営業を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 就労者は 12 名でした。既に、次年度 2 名の内定も獲得しています。 ● 体験実習先として契約をしている実習先以外に 27 件の施設外実習を提供しました。 ● 15 名の新規利用者を獲得しました。 ● 発達障害のある精神保健福祉手帳所持者をメインターゲットとし、夏の体験実習、利用を前提とした冬の実習、というステップを作り、効率的な集客を実現できました。 ● 利用希望見学者のうち、市外の福祉機関経由の方の割合が、対前年度比が 7 倍になっています。また、ネット等の検索による見学者も増加していることから、次年度もポイントを絞った営業戦略を練ります。
2) 定着支援	
<ul style="list-style-type: none"> ● 職場適応期支援の充実等、就労者一人一人に応じた定着支援を実施し、就労後 1 年間の定着率 90%以上を目指します。 ● マスターズクラブのアンケートなどを基に、就労定着に効果的な内容を検討し、展開させていきます。 ● 今年度も、現利用者・就労者の保護者を対象とした会を実施し、保護者の方に必要な情報提供に努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 就労後 1 年間の定着率(入社 1 年以上経過している就職者のうち、1 年以上勤続がある利用者の割合) 86.7%でした。 ● 平成 29 年度は、選択制のプログラムや、相談時間を長めに確保するなど、一人一人のニーズに応じていけるような展開を検討しています。 ● 保護者セミナーでは、保護者同士の繋がりを持つフリートークの時間が良かったとの声を多く頂きました。
3) 運営全体	

<ul style="list-style-type: none"> ● 通所利用者の増加に伴い、メンタル面での課題を持つ利用が増えると想定される為、施設として、一人一人にあった最適な支援を検討します。 ● 部署内研修及び長期的な職員育成計画を基に、非常勤職員も含めた職員全体のスキルアップを図ります。 ● 施設の安定経営を目指すために、利用者の確保と共に、常勤・非常勤職員の配置バランスを見直します。 ● 安全衛生委員会活動と連動し、施設内プログラム、及び施設外実習における災害ゼロを目指します。 ● 企業と連携し、発達障害の雇用や就労支援に関する啓発・情報交換が出来る取り組みを実施します。 ● 川崎市内を中心とした関係機関と連携し、発達障害者支援の情報収集を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 通所日数や訓練時間を少なくしている方や、参加するプログラムを限定している方が、全体の20%ほどいます。今後も、個別の事情や目標に合わせて支援の在り方を検討します。 ● 月に1度内部研修を実施しました。上期は新規利用者獲得に向けた外交力の強化を図り、下期はケーススタディーなどを通して、利用者処遇のスキルアップを目指しました。 ● 「就活アプリ」(地域の発達障害者等を対象とした無料の就活セミナー)を年3回開催し、延べ13名が参加し、新規利用者の確保に結び付けました。また、利用者の増加に合わせて、5月にフルタイム非常勤を1名採用しました。 ● 施設内プログラム、及び施設外実習における災害はありませんでした。 ● ハローワーク品川とコラボレーションし、17社21名の企業の人事担当者と、ウイング・ビート利用者が模擬面接を行う、合同企業模擬面接会を実施しました。 ● 川崎市内の発達障がい児者支援関係機関連絡会に参加し情報収集をした他に、都内の就労支援機関とも連携し、情報収集を行いました。
---	---

3. 2016 年度 事業の詳細分析

(1) 利用者数の概況と推移

年間の実契約者数は 39 名でした。数字は該当月の月末時点での人数です。

表 2 契約者と新規利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
月間契約者数	24	24	24	22	22	24	25	26	26	26	24	23	24.1
新規利用者数	4	2	0	1	2	2	2	3	0	0	1	1	1.5

単位：人

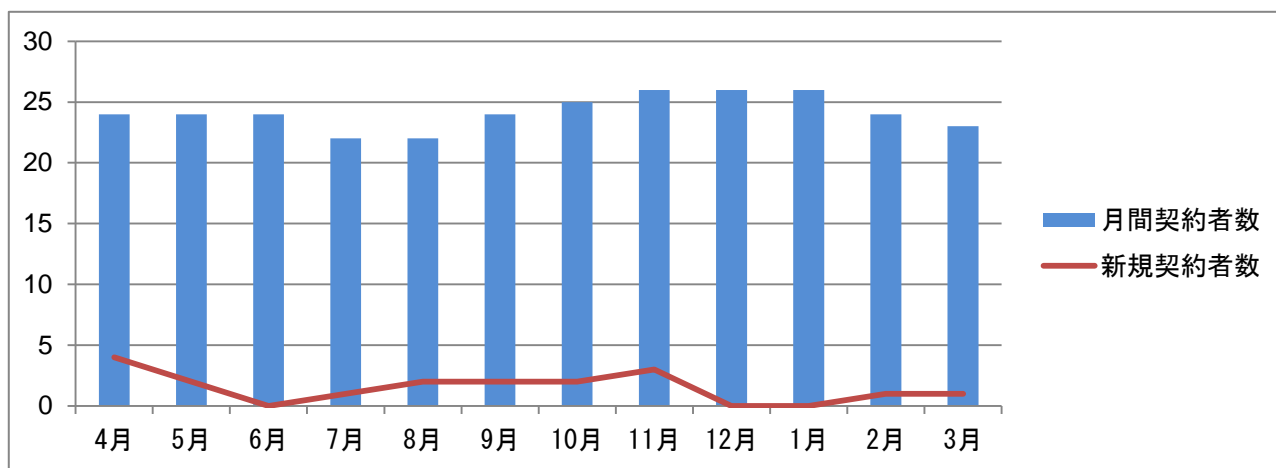


図 1 年間の利用者数推移

表 3 2017 年 3 月末時点の内訳

項目		人数
契約利用者数		23 人
性別	男	20 人
	女	3 人
年齢	最低	19 歳
	最高	44 歳
平均年齢		27 歳

① 障害程度の分布(重複の場合は主たる障害で分類)

利用開始時に障害者手帳未所持であっても、利用後に手帳を取得される方が殆どです。
※2016年6月より、運営規定上の施設利用対象者を精神障害者に改めました。

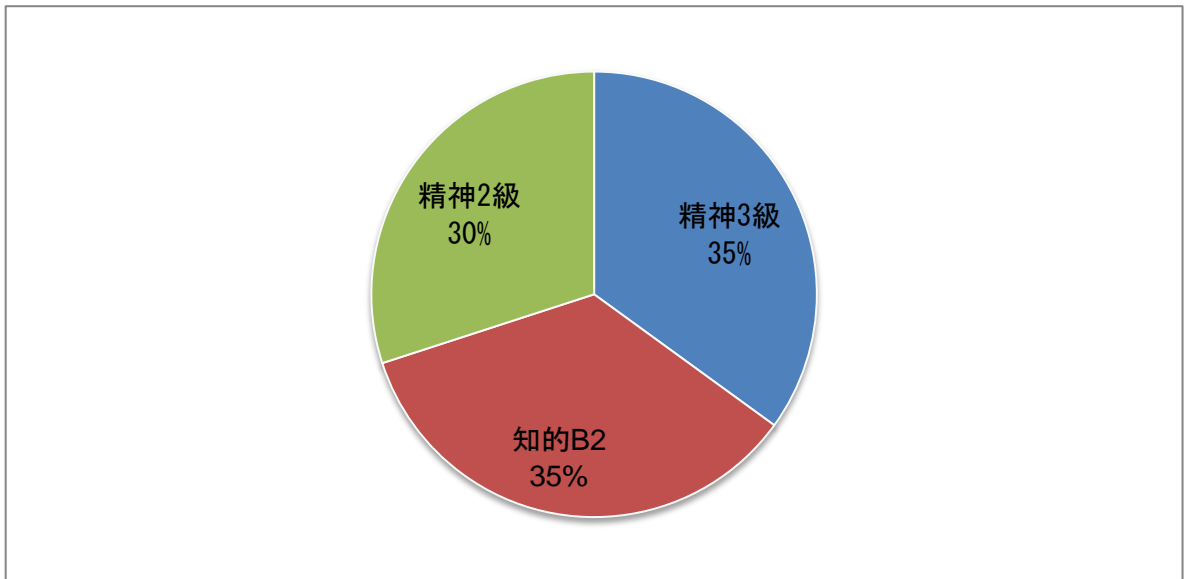


図 2 障害程度の分布

② 最終学歴(中退者は中退した時点の所属に含む)

一般の高等学校或いは、それ以上の教育機関に属していた方が殆どです。3月末時点での特別支援校卒業者は2名でした。

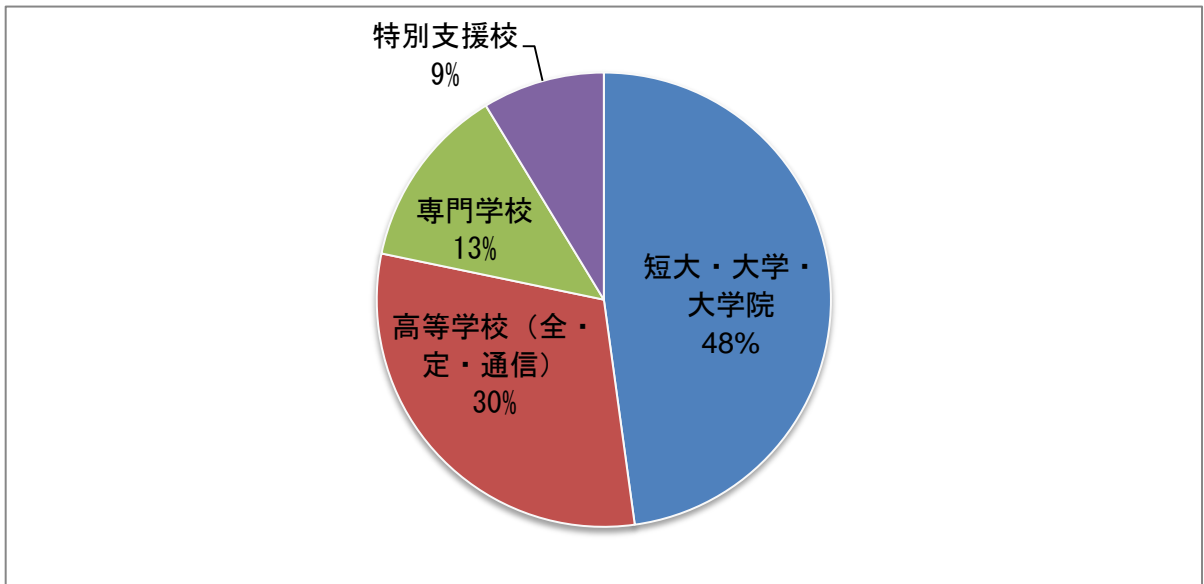


図 3 最終学歴の分布

③ 居住区の分布

川崎市中原区以北のエリア在住の方が中心です。市外からの通所者が前年比で12%増えました。

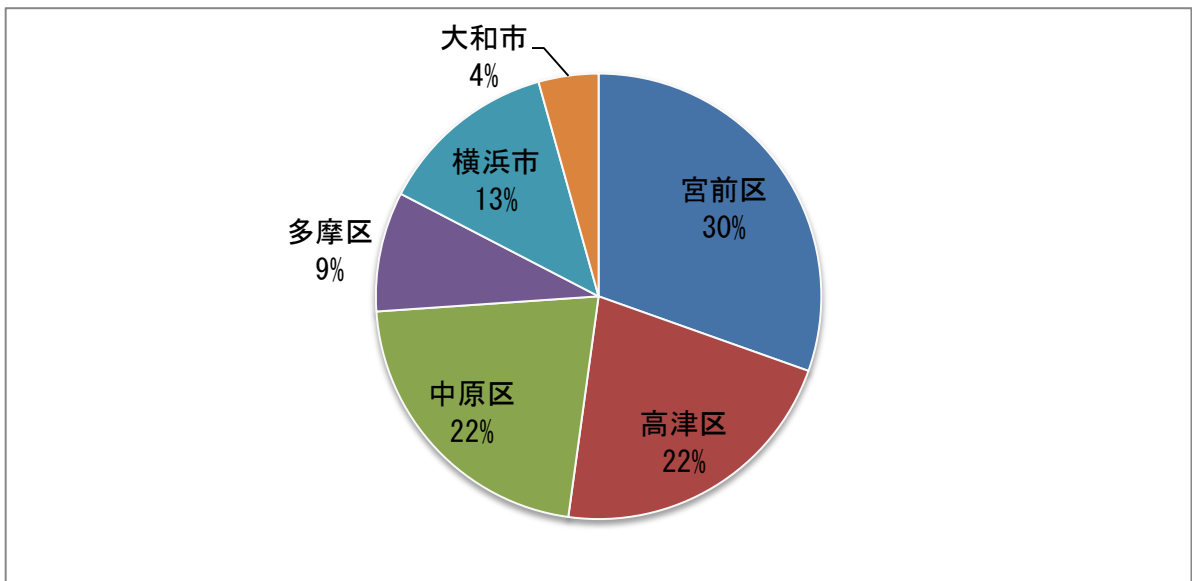


図 4 居住区の分布

④ 紹介経路

今年度も発達相談支援センター・福祉機関・区役所等の福祉関係機関からご紹介されるケースが全体の80%を占めています。定期的に最寄の川崎北職安へ足を運び、連携を取っている関係もあり、例年10~20%の割合で職安からご紹介を頂いています。

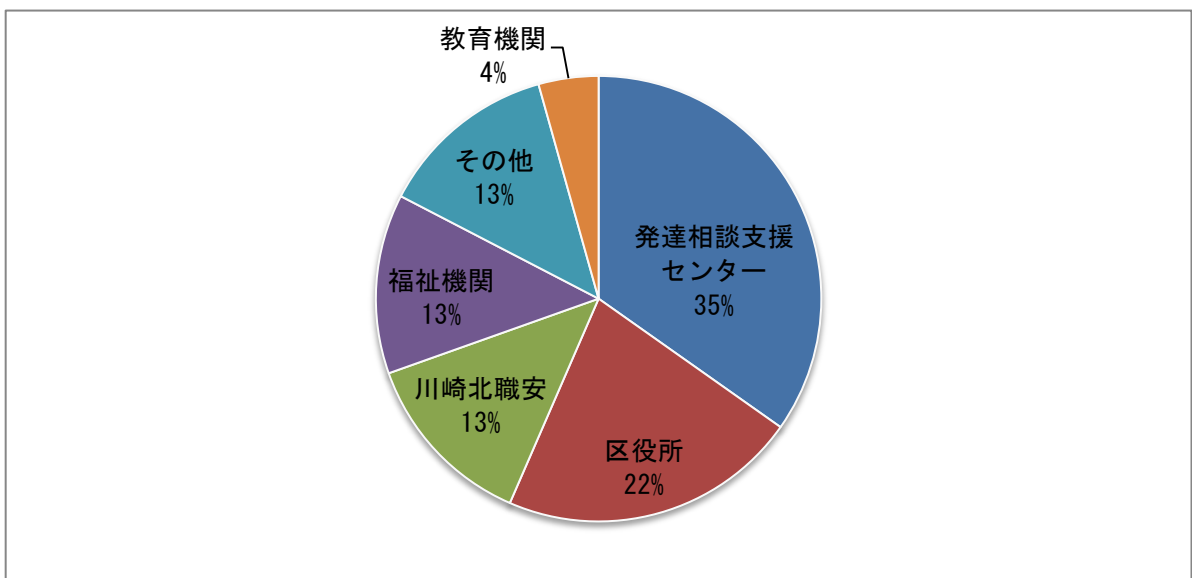


図 5 紹介経路の分布

(2) 見学から施設利用への推移

利用を検討する為の施設見学は51名でした。見学者のうち、手帳の有無や種別について判明しているケースについて、前年度と比較すると、療育手帳所持者の全体を占める割合（25%→16%）が減少し、精神保健福祉手帳所持者の割合（15%→21%）が増加しています。そのうち実習を体験した方の、本利用への移行率(利用予定も含む)は70%となり、前年度同様、多くの方が実習に満足し、利用を決断されている事がわかります。

表4 見学から施設利用への推移

見学者数	実習実施者数	利用希望者数
55人	20人(36%)	14人(70%)

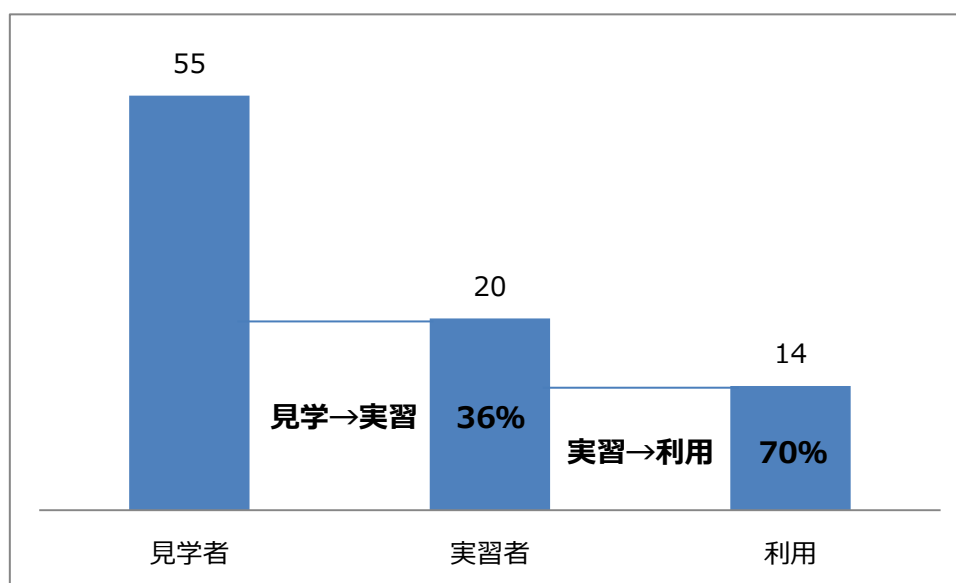


図6 見学から利用までの移行率

表5 施設見学者の数（施設利用希望者の見学は除く）

福祉関係	教育関係	HW・区役所関係	企業・医療 その他	合計
5名	1名	1名	10名	17名

2016年度は新たな関係機関からの見学も増え、発達障害者の就労支援に対するニーズの高まりや、ウィング・ビートの広報活動の成果と考えられます。

(3) プログラムについて

プログラムは9時～15時まで、3限(1コマ90分)で構成されており、水曜のみ9時～13時までとなっています。集団で行うプログラムを週3～4コマ設けており、それ以外の個別プログラムの時間は、職員が組んだスケジュールをもとに一人一人異なるプログラムを実施します。

利用対象者の特徴として、比較的年齢が若く、社会経験の少ない方が多いことが挙げられます。自分に何が向いているのか、できること(できないこと)、やりたいこと(やりたくないこと)は何かなど、まずは様々な体験を通して自己理解を深め、就職に向けて、「強み・苦手の把握と必要な対策を持つ」、「自分に自信をつける」、「自己肯定-大人としての意識を持つ」、「協調性、役割に対する責任感を持つ」の4点を目標にしています。

表6 週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金
8:55	朝礼・ラジオ体操				
1限 9:00 ～ 10:30	個別プログラム	個別プログラム	個別プログラム	個別プログラム	個別プログラム
休憩					
2限 10:45 ～ 12:15	個別プログラム	個別プログラム	講習 「防災・安全管理」	コミュニケーション 「ディベート」	個別プログラム
昼休憩			一日の振り返り		
3限 13:00 ～ 14:30	個別プログラム	グループワーク 「食生活①」	帰宅	個別プログラム	個別プログラム
14:40～ 15:00	一日の振り返り	一日の振り返り		一日の振り返り	一日の振り返り
15:00	帰宅	帰宅		帰宅	帰宅

① 個別プログラム

個別プログラムは、その方の特性や希望に合わせて、職員が提示しています。プログラムは 20 種類以上あり、通所開始後まずは一通り体験しながら、面談を通して個別にコースを設定します。コースは 3 つあり、①軽作業、②事務系、③清掃に分かれ、それぞれスキルアップまたは適性を確認していきます。得手不得手がある中でどのように仕事と向き合うか、検証や対策を考えつつ職業準備性を上げられるよう、お一人お一人に合わせてメニューを組んでいきます。

また、個別プログラムに「マイタイム」があります。これは、決められたプログラムを行うだけでなく、この時間に何をするのか、利用者の方が主体的に内容と目標を設定し、計画的に進めていく力をつけることを目的としています。メニューを決めるにあたり、ご希望があれば職員も一緒に考えます。多くの方はパソコンスキルの向上を目指してパソコン検定の資格取得のための学習をしたり、日常的に使う漢字や計算の学習をしたりしています。

表 7 個別プログラムの内容

軽作業	事務作業	清掃作業
<ul style="list-style-type: none"> ・ タオルたたみ （三つ折り、巻き） ・ 封筒仕分け ・ 葉書仕分け ・ ピンキャッチ ・ 丁合作業 ・ 封入作業 ・ 印刷作業 ・ チラシ折り作業 <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幕張式ワークサンプル OAworks （検索修正、文章・数値入力） ・ タイピング ・ 日報集計 ・ 事務補助 ・ 資料作成 （主に word・Excel ソフト使用） ・ ラベル作成 ・ マイタイム （資格取得・自主学習） ・ 名刺作成 ・ ポスターデザイン <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 館内清掃 <p>【体験実習先】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ こども文化センター（2 か所） ・ 保育園 ・ 近隣マンション ・ 近隣公園

② 集団プログラム

集団プログラムは、講習、研究発表、運動プログラム、コミュニケーションプログラム、グループワークで構成しています。

【講習】

週に1回、就職・生活・安全教育・自己理解等に関する講義を通して、社会人として必要な知識と技術を高めることを狙いとしています。定期的に外部講師をお招きし、専門家の方から講義を聞く機会を設けています。就職に関するだけでなく、将来の自立に向けて必要なスキルを学べるように内容を設定しています。

【研究発表】

就職・健康生活・趣味その他の3つのカテゴリの中から毎月自分でテーマを設定し、個別プログラムの3コマを使用して資料作成を行います。主にwordソフトでの作成になりますが、書式はなく、聴講者にとって見やすい資料になるようにそれぞれ工夫しながら作成しています。納期までに仕上げ、月末に全員の前で一人一人発表します。毎月繰り返すことによって、パソコンスキルの向上だけでなく、納期までに計画的に仕事を進める意識や、発表の機会を通して人前で話しをすることに慣れ、自身を高めることを狙いとしています。

【運動プログラム】

毎月2回、地域のスポーツセンターにて実施しています。バスケットボールや風船バレーボール、大縄等の集団スポーツを通して、コミュニケーションを図り、メンバーとの協力や協調性を意識して、楽しみながら取り組むことを狙いとしています。

【コミュニケーション・プログラム】

話し方・聞き方などのリアクション・人との距離感など、具体的な振る舞いを意識しながら取り組むプログラムとして、週に1回の頻度で実施しています。ディベートについては、毎回議題を変えながら、月に1度の定例プログラムとしています。クロスワード等のゲーム、メンバーの良いところ探しなど、楽しみながら取り組むものもあります。また、職場を想定し、実践的なやりとりのスキルを磨く「思いやりコミュニケーション」「パーソナルスペース演習」などを通し、職場の上下関係、同僚や後輩との基礎的な付き合い方などについても学びます。

【グループワーク】

約1か月間、固定したメンバーで、週に1回の連続したワークを通し、テーマに応じた企画の実施や成果物を作成します。グループ内で司会、資料作成、発表者等の役割を決め、担当者は責任を持って実行します。また、講習やコミュニケーションプログラムで学んだ技術を実践していきます。

表 8 2016 年度実施した集団プログラムの内容

講習	コミュニケーションプログラム	グループワーク
<p>【施設利用ルール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用ルール ・ 利用から就職まで <p>【就職】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職業適性について考える ・ 職務経歴書作成 <p>【健康生活】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 睡眠・ストレスについて ・ 社会人の身だしなみ ・ オンとオフの使い分け方 ・ 一人暮らしについて <p>【安全教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災帰宅困難時の対応 ・ 危険予知教育 ・ 感染症対策 <p>【自己理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エゴグラム・ストレスチェック ・ 交流分析 <p>【外部講師】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身だしなみ講習 ・ LINE 講習 ・ 熱中症対策講座 ・ 食育講座 ・ 薬育講座 ・ 障害者雇用の状況について <p style="text-align: right;">計 29 回</p>	<p>【対人関係構築術】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ お互いを知ろう ・ 良いところ探し ・ 思いやりコミュニケーション ・ 上下関係 <p>【コミュニケーション講座】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SNS と私 ・ パーソナルスペースについて ・ ディベート ・ 時事討論 <p>【楽しみながら】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ お正月ゲーム ・ ジェスチャーゲーム ・ クロスワード ・ WHAT <p style="text-align: right;">計 29 回</p>	<p>4 月 内覧会企画</p> <p>5 月 内覧会企画</p> <p>6 月 食生活を見直そう</p> <p>7 月 暑気払い企画</p> <p>8 月 事業所紹介</p> <p>9 月 企業合同模擬面接会</p> <p>10 月 休日の過ごし方</p> <p>11 月 企業見学会企画</p> <p>12 月 納め会企画</p> <p>1 月 グループ研究</p> <p>2 月 食生活を見直そう</p> <p>3 月 グループ研究</p> <p style="text-align: right;">計 41 回</p>

(4) 就労支援と定着支援

① 施設外実習

就労を前提としない施設外実習先が7カ所あります。就労を前提とした企業体験実習を含め、年間の延べ実習参加人数は1295人となり、1日あたりに実習生を送り出している人数は、5人を超えることとなります。

職場に近い環境を体験できる機会をより多く提供できるよう、2017年度は既存の実習先の条件の見直しや、新規実習先の開拓を検討し、1日あたりの実習者数の増加を目指していきます。

表9 施設外実習件数

延べ実習参加人数	1,295人
稼働日数	243日
1日あたりの実習者数	5.33人

表10 施設外実習先一覧

事業所名	業務内容
(株)ダイワコーポレーション	軽作業
トーマツチャレンジド(株)	軽作業
多摩図書館	書架整理、チェックなど
(有)モーターサービスドッグ	車輛配送業務
東急リバブル(株)	事務
(株)パソナハートフル	事務
川崎市役所第4庁舎	清掃
(株)東計電算	清掃
(株)ココット	事務
日東樹脂工業(株)	軽作業
(株)スタックス	軽作業
大東建託(株)	事務
農林中金ビジネスアシスト(株)	事務
エヌ・エル・オー(株)	軽作業
(株)グローバルキッズ	保育補助、清掃
岡村建興(株)	事務
NECフレンドリースタフ(株)	事務
(株)青空 デイサービスそらの家	介護補助、軽作業
(株)SRT警備	軽作業
高津こども文化センター	定期実習 清掃
二子こども文化センター	定期実習 清掃
溝口南公園	定期実習 清掃
もりのこ保育園	定期実習 清掃
Empereur Beton K マンション	定期実習 清掃
高津図書館	定期実習 書架整理、チェックなど
メルコリゾートサービス(株) MELONDIA あざみ野	定期実習 外館清掃、客室清掃

② 就職率

2016年度内の退所者16名に対し、12名が一般企業への就職を果たし(就労継続A型への移行は含まない)、年間の就職率は75%となっています。自己都合退所された方は、その後の進路として、日中の通所先を設けずに、就職活動を目指す方が多いという状況です。

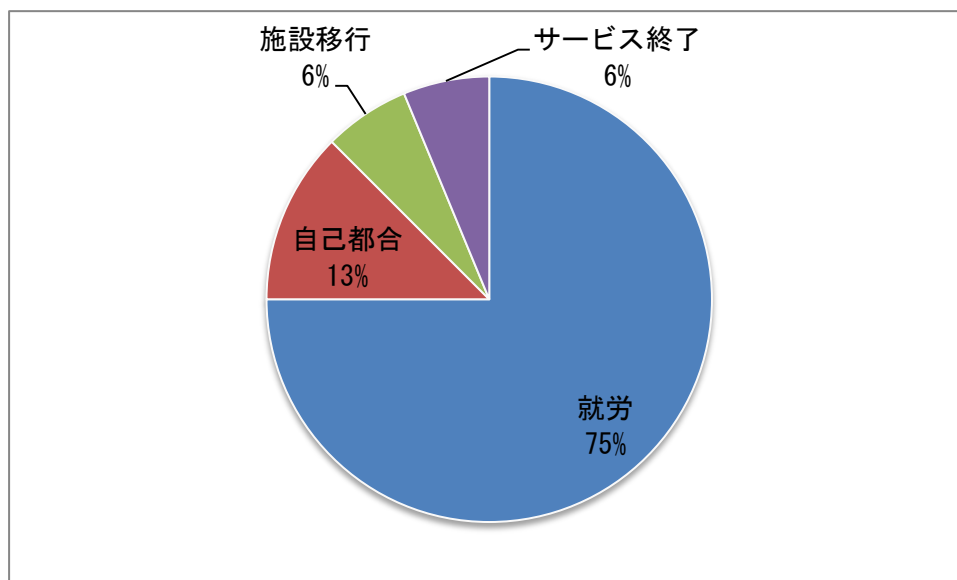


図7 就職率

③ 就労先と、就労までの在籍期間

2016年度に就労された方のウィング・ビート在籍期間は、約13か月となります。通所に慣れ、施設外実習に挑戦する時期がおおよそ通所開始から3か月以降となっており、2016年度に就労された方の平均値を見ると、在籍期間中に約6件の実習を経験した後、就労されていることがわかりました。

表11 就労先と訓練期間

	就労先企業名	仕事内容	WB 在籍期間
1	(株)東急ウィル	清掃	18か月
2	昭和電工(株)	事務	11か月
3	トーマツチャレンジド(株)	軽作業	11か月
4	(有)モーターサービスドッグ	車輛配送業務	6か月
5	(株)ヒューネル	コール業務	5か月
6	(株)東急ビルメンテナンス	清掃	16か月
7	(株)東急リバブル	事務	8か月
8	(株)東計電算	清掃	14か月
9	日東樹脂(株)	軽作業	16か月
10	(株)スタックス	軽作業	32か月
11	大東建託(株)	事務	10か月
12	(株)グローバルキッズ	清掃	11ヶ月

④ 定着率

就労移行支援事業に移行して3年が経過し、27名の就職者を輩出しました。2016年度内の離職者は4名であり、開所当初からの在職率は81%となっています。ウィング・ビートの訓練期間中に複数の実習を体験することで自身の課題を整理し、必要な対策を取りながら就職活動を進めることにより、適性なジョブマッチングを果たすことが、長期の定着に結びつくと考えます。

2017年3月末時点の離職者の内、3名の方が転職されました。利用対象者である発達障害者の傾向として、転職によるキャリア形成を考え、実行するケースが、今後も一定数出てくることと思われます。転職を希望する就労者に対しては、円滑な退職支援と転職後の支援機関の紹介やケースの引き継ぎが求められます。

過去3年間で、就労後1年以内での離職者は3名であり、就労後1年の定着率は88%でした。

表 12 定着率

	14年度就労	15年度就労	16年度就労	過去3年計
就労者数	5名	10名	12名	27名
17年3月末時点での離職者数	3名 (内2名は転職)	1名	1名(転職)	5名 (内3名は転職)
在職者数	2名	9名	11名	22名
在職率	40%	90%	92%	81%

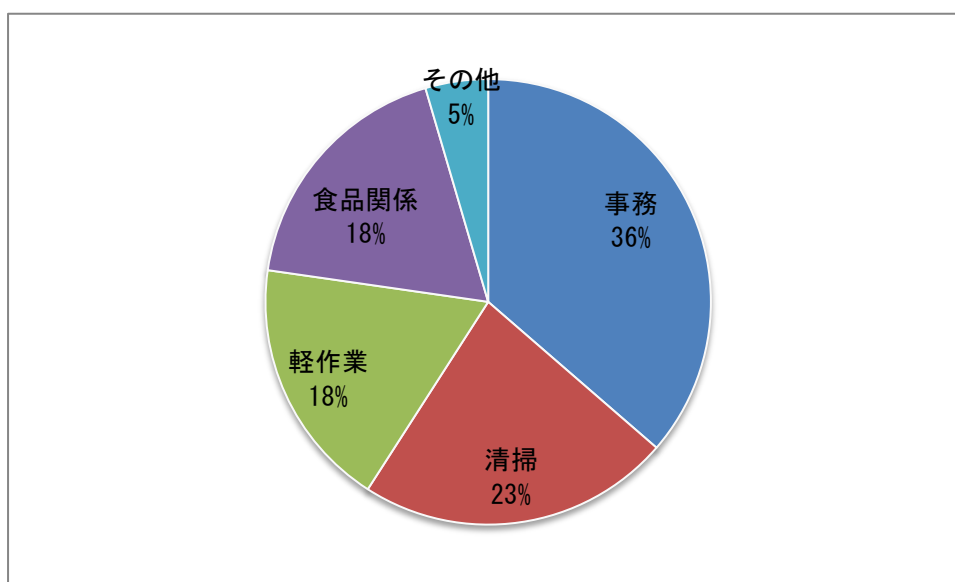


図 8 就労者の職種

⑤ 定着支援

就職者が安定して仕事を続けられるよう、就職後に行う支援を、定着支援と呼びます。職場訪問、本人や家族との電話等による連絡相談、面談、関係者とのカンファレンス、職場との連絡調整等、その内容は多岐にわたります。2016年度の支援回数は479回で、うち82回が職場訪問でした。

【Master' s Club】

ウィング・ビートから就職した利用者の同窓会イベントである「Master' s Club」を2016年度に4回実施しています。就労者間のネットワークづくりや就労を継続するための勉強会や食事会などを行ってきました。

表 13 Master' s Club 実施内容

	開催日程	内容	参加者
①	2016年6月18日(土)	1部 ストレスコントロールについて 2部 現利用者との交流会	16名
②	2016年8月20日(土)	心身の健康管理について	15名
③	2016年11月19日(土)	SNSについて	14名
④	2017年2月18日(土)	将来の不安について	19名

年に4回開催し、毎回就労者の8割前後の方の参加がありました。ただ集まって話をするだけではなく、お互いの仕事について紹介しあい、各回のテーマに沿って、ワーク形式で学ぶ時間を設けています。また、就労者同士で話し合う機会を設けることで、横のつながりを作るきっかけとなり、現在では就労者同士が自発的に休日を共に過ごすなど、仕事以外の関わりが生まれています。

2016年度より、現利用者との交流企画を設け、就労者の声を、現役利用者に直接伝える機会を作り、就労者の自信につなげるとともに、これから就職を目指す現役利用者が先輩の話しを聞くことで、自分の就職をより具体的にイメージできるような企画にしました。交流会企画は就労者、現役利用者共に好評で、2017年度も実施していきます。

【家族セミナー】

2016年7月30日（土）に、ウイング・ビート現役利用者、利用待機者、就職者の家族を対象とした、家族セミナーを開催し、21名の方が参加されました。

表 14 家族セミナー概要

日時	2016年7月30日（土） 14:00～16:30
場所	高津市民館
内容	1：ウイング・ビート事業報告 2：セミナー『発達障害基本のキ』 講師：川崎市発達相談支援センター 所長 阿佐野 智昭 氏 3：グループワーク 『将来の不安と対策について』 4：個別相談会
参加者	21名

2016年度の家族セミナーは川崎市発達相談支援センターの阿佐野智明所長をお招きし、『発達障害の基本のキ』というテーマでセミナーを実施しました。発達障害の特性についての説明の後、発達障害のある人たちが日々感じている世界について、手袋等を使って体験する機会もありました。

その後、数名のグループに分かれて『将来の不安と対策』というテーマのもと、グループワークを実施し、ご家族が日々感じていることを話し合ってもらいました。参加者からは「他のご家族の方とお話出来て、有意義だった。またこのような機会が欲しい。」、などのご意見をいただいております。また、個別の相談会を設け、今後予想される問題について共有しました。今後もこういった家族向けのセミナーを年1回企画し、ご家族への情報発信に努めたいと考えます。

(5) 地域課題・福祉課題に向けた取り組み

① 就活アプリ

発達障害があり、福祉的な支援を必要としていながら、ご本人やご家族が社会資源を知らないまま過ごされているケースや、福祉への一歩を踏み出しにくい・施設利用はハードルが高い、と足踏みされるケースも地域の中には潜在的に多くあるようです。これらの課題を抱える方々を対象とした、「就活アプリ」という事業を2014年の事業移行当初から毎年無償で開催しています。

【目的・狙い】

- 就職面接や周囲とのコミュニケーションに苦手意識を感じている方を対象に、就職に必要な面接練習やビジネスマナー、コミュニケーションプログラムを通じ、コミュニケーションのくせや特性、得意不得意を整理することで、自信を持てるようにサポートする。
- 発達障害者に向けた福祉の支援について理解を深める機会とする。

表 15 就活アプリ概要

	開催日程	内容	参加数	参加者紹介内訳
①	6月8日(水) 9日(木)	面接講座 模擬面接 コミュニケーション講座	5名	ハローワークからの紹介1名 利用について検討中1名 その他3名
②	9月14日(水) 15日(木)		4名	区役所からの紹介1名 所属する学校からの紹介1名 支援機関からの紹介1名 その他1名
③	1月11日(水) 12日(木)		4名	発達相談支援センターからの紹介1名 利用について検討中1名 その他2名

2016年度も、参加者の就職活動につながる機会となるよう、内容のブラッシュアップを行いました。ウィング・ビート利用者の7割近くの方が、職業イメージが無い状態で利用を開始している現状を鑑み、新たな取り組みとして職業興味講座を取り入れました。次年度も、ご自身の職業興味や、目指す職種について考える内容を更に取り入れていきたいと考えます。



就労移行支援事業所ウイング・ビート
2016年6月15日

就活アプリへのご参加ありがとうございます。お疲れ様でした。
これからの就職活動に向けて、2日間の〇〇さんの様子をお伝えします。

◆◆◆ビジネス講座◆◆◆

〇〇さんの強みは、丁寧な言葉遣い、着席時の姿勢、穏やかなで誠実な雰囲気の3点です。

座談会や模擬面接では、言葉を選んで発言されていることが伺えました。また、姿勢がよく、面接官の目を見て受け答えをすることができています。答えられない質問に対して、わからないことを隠すことなく伝えることで、誠実な印象を受けました。

今後、面接スキルの向上に向けて、良く聞かれる質問「得意なこと、苦手なこと、自己PR」などをあらかじめまとめ、事前準備を行うことをお勧めします。面接は経験を重ねることで上達していきます。失敗を恐れずに、ウイング・ビートと一緒に練習をしていきましょう。

◆◆◆コミュニケーション講座◆◆◆

初対面のメンバーとのコミュニケーションゲームは緊張されたのではないのでしょうか。お疲れ様でした。

冒頭で伝えた、「話し方」「聞き方」「メンバーとの協力」の3点を意識してワークに参加されていました。特に発言が重なった場面では相手に譲る配慮が見られています。また、相槌や頷きが自然と実践できており、話し手に安心感を与えています。発言のタイミングや話の切り出し方に困惑することがあったかと思いますが、周囲を気遣い穏やかな雰囲気での発言ができる点が〇〇さんの強みです。良さを活かしつつ、より高度なコミュニケーションスキルの習得を目指していきましょう。

◆◆◆今後の就職に向けて◆◆◆

初めての面接練習や、初対面の方と課題を進めるという講座は、とても緊張したと思います。お疲れ様でした。また、お時間が合いましたら、ぜひ就活アプリにご参加お待ちしております！

『就活アプリ』にご参加いただきまして、ありがとうございました。
皆様のご活躍を応援しています。

ウイング・ビート

図8 ウイング・ビート・フィードバックの例

今後の就職活動に役立つよう、参加者全員に、強みや弱みなどについてまとめた「ウイング・ビートフィードバック」を作成し、お渡しています。

② 合同企業模擬面接会

この企画は、ハローワーク品川とコラボレーションして2014年にスタートしたものです。今までに面接経験がない、または経験が少なく、実践的な練習がしたいという施設利用者と、今後発達障害の雇用を検討していきたい、或いは拡大していきたいという企業が集まり、模擬面接会を行うものです。

2016年度は昭和電工株式会社の会議室を会場としてお借りしました。会の前半は、企業人事担当に対して、ハローワークの方からの基調講演や、グループ別の研修会を実施し、その後の具体的な採用活動に繋がるように工夫しています。

利用者は、実際の面接と同様に履歴書を作成し、面接練習を重ねて、自分の障害特性をどう説明するか等、事前の準備を行いました。事業所内で開催する模擬面接練習と異なり、本番さながらの面接会を行い、面接後に良かった点や改善点などのフィードバックしてもらうことで、自分自身の課題や強みを再確認できる機会となり、大きな自信につながりました。

今後も多くの企業様と連携した企画を交えながら、利用者の経験や自信につながるようにプログラムを再考してまいります。

【目的・狙い】

- 障害者雇用を進めている企業の人事担当者と実際に面接を行い、今後の就職活動に向けて自分の課題を明確にする。
- 面接での受け答えだけでなく、当日までの必要な準備や下調べについて学ぶ。

表 16 合同企業模擬面接会概要

日時	2016年9月29日
場所	昭和電工株式会社
内容	基調講演(ハローワーク) 研修 合同面接会
参加者	企業17社21名 利用者21名

平成 28 年 9 月 1 日

関係者各位

発達障害者雇用合同研修会 2016

「発達障害の特性を生かす採用」研修のお知らせ

拝啓

初秋の候、皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当事業所ウイング・ビートは、主に発達障害をお持ちの方々を対象に、就労へ向けた訓練を行う施設です。

この度、昭和電工株式会社様、公共職業安定所ハローワーク品川様にご協力いただき、企業様向けの発達障害者雇用についての研修会を下記のように企画し、開催する運びとなりました。

研修会では、前半で発達障害者雇用の動向や採用ポイントについての講義とグループ討議を行い、後半は実際に発達障害を持つ方の模擬面接を通して、障害特性の具体的な確認や、ヒアリングの方法をグループで話し合う時間を設けました。他社様との、雇用状況や事例についての情報交換の場としてもご活用ください。

模擬面接に参加する発達障害当事者においても、今後の就職活動に向けた準備として、大変貴重な経験となります。模擬面接を通して、様々なご示唆をいただければと考えております。

お忙しい中とは存じますが、ぜひ足をお運びいただければ幸甚に存じます。

敬具

記

日時	平成 28 年 9 月 29 日(木) 13:00 ~ 17:00
場所	昭和電工株式会社 本社ビル 2 階会議室 東京都港区芝大門 1-13-9 (裏面に地図がございます。) JR 山手線/京浜東北線 浜松町駅 徒歩 6 分 都営地下鉄大江戸線/浅草線 大門駅 徒歩 2 分
参加者	発達障害者雇用をご検討されている企業関係者様 (定員 25 名)
内容	・基調講演 『発達障害者雇用の動向と採用ポイントについて』 講師 公共職業安定所ハローワーク品川 廣田 朱氏 ・グループ討議 『発達障害者雇用における特性の見極めと雇用管理について』 ・発達障害者との模擬面接(グループごとに数名の当事者と模擬面接を行います。) ・グループごとの振り返り/考察
参加方法	お電話にてご連絡ください。 就労移行支援事業所 ウイング・ビート ☎044-822-0411 担当/山梨

主催：社会福祉法人電機神奈川福祉センター

協力：昭和電工株式会社 総務・人事部 事業支援グループ ジョブサポートチーム

図 9 合同企業模擬面接会の案内

(6) 研修・会議の状況

職員の資質向上を目指し、先進的な取り組みをされている事業所の見学や、研修会への参加を積極的に行いました。また、地域の中の施設として、関係機関との連携や地域ニーズの把握を心掛け、会議にも参加しました。

表 17 研修・会議参加一覧

■ 研修

救命救急講習	SST ファーストレベル研修
秋山商事清掃講習	全国就労移行支援事業所連絡協議会 沖縄タウンミーティング
H28 年度就業支援基礎研修	成人の発達障害者をめぐる家族支援
発達障害スキルアップ研修	サービス管理責任者補足研修
全国就労移行支援事業所連絡協議会 タウンミーティング愛媛	ジョブコーチカンファレンス 2016
モチベーションマネジメント研修	精神障害者が企業で活躍し続ける支援の為に (K-STEP 説明会)
自閉症カンファレンス NIPPON2016	社会福祉法の一部改正について
神奈川県請求研修	

■ 参加会議・連携

全国就労移行支援事業所連絡協議会幹事会	星槎高校進路説明会
JC-net 会議	川崎市集団指導
狛江市発達障害就労支援セミナー	横浜市予算概要説明会
全国就労移行支援事業所連絡協議会 課題共有カンファレンス	高津区自立支援協議会
障害者雇用部会	さぎぬま公園クリニックカンファレンス
川崎市地域自立支援協議会	社会保障審議会
高津区まちづくり協議会	多摩区・宮前区サービス調整会議
高津区包括支援センター会議	川崎障害者就業・生活支援センター連絡会議
目黒区就労移行支援事業連絡会	

■ 講師派遣

川崎市西部療育センター 保護者会	首都大学東京 相談支援基礎実習座談会
JC-net 会議	高津区包括支援センター会議
狛江市発達障害就労支援セミナー	NEC フレンドリースタッフ社内 障害者雇用説明会

■法人内研修

考課者研修	川崎ブロック研修
常勤職員事業報告会	法人全体研修

■研修受け入れ

学校法人三幸学園東京医療秘書福祉専門学校

■福祉関係機関への視察

東京都発達障害者支援センター	川崎市発達相談支援センター
横浜市発達障害者支援センター	若者支援 あいりす
かわさき若者サポートステーション	よこはま若者サポートステーション
百合丘就労援助センター	中部就労援助センター
川崎南部就労援助センター	横浜東部就労援助センター
稲城市障害者就労支援センター	狛江市障害者就労支援センター
神奈川県障害者就労相談センター	昭和大学付属烏山病院
NPO 法人東京都自閉症協会	高津支援センターまんまる
障害者就労支援センターさわやか	ジョブジョイント大阪
エンカレッジ大阪	

4. 2017 年度 事業目標

<p>重点目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 第三者評価の受審に向けて、職員、利用者、家族への周知と理解を得ると共に、現行のサービスについて振り返り、質の向上に繋がります。 ● 就活アプリ(地域の発達障害者やその予備群を対象とした無料の短期就活講座)のリニューアルと、営業を強化し、毎回5名以上の集客を目標に実施します。
<p>2) 就労移行支援事業 (20名定員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 年間13名以上の就労者を輩出します。 ● 平均契約者数22名を目標とします。前年度24名を達成しましたが、ハード面の整備や、プログラムに工夫が必要となる為、環境整備に尽力しつつ22名を下回る事のない運営をします。 ● 一日当たりの平均施設在籍者数を15名とし、5～7名は施設外実習による訓練を実施できるよう、状況に応じて既存の実習先の条件見直しや、新規開拓について検討します。 ● 施設外実習を年間25件以上実施します。 ● 就労により退所となる13名以上の新規利用者を確保する為、市外の福祉関係機関とも連携を図りながら、営業を行います。 ● 訓練期から、必要に応じて家族や関係機関とコンタクトを取り、職場適応期のフォローに繋がっていきます。
<p>2) 定着支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 職場適応期支援の充実等、就労者一人一人に応じた定着支援を実施し、就労後1年間の定着率90%以上を目指します。 ● 就労者の多様な雇用形態や、個別のニーズ等を鑑み、マスターズクラブ(就労者の同窓会)の開催日・時間・内容等について検討します。 ● 現利用者・就労者の保護者を対象とした家族セミナーでは、家族同士の情報交換や交流が深まるような展開とし、利用者確保にも繋がるような仕組みにします。
<p>3) 運営全体</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 部署内研修及び長期的な職員育成計画を基に、非常勤職員も含めた職員全体のスキルアップを図ります。 ● タブレットを活用した見学対応や作業指導などを推進させ、伝わり方や効率化について検証します。 ● 安全衛生委員会活動と連動し、施設内プログラム、及び施設外実習における災害ゼロを目指します。 ● 企業と連携し、発達障害の雇用や就労支援に関する啓発・情報交換が出来る取り組みを実施します。 ● 川崎市内を中心とした関係機関と連携し、発達障害者支援の情報収集を行います。 ● 平成28年度に会員となった全国就労移行支援事業所連絡協議会を通して、現場の声を政策に反映させるべく一躍を担います。